**≪令和5年度「介護等の体験」代替措置課題・学修報告レポート【視覚：全員用】≫**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **氏名** | **山本 雄大** | **学部学科** | **理学部数学科** | **学籍**  **番号** | **04A21051** |

|  |
| --- |
| **１．学修の成果**  ※「視覚障害児の教育課程及び指導法」の学修を経て自らが学んだことや考えたことを600～800字程度で記述してください。  算数・数学の教材と教具は、特に導入期において見やすさが重要だということがわかった。このスライドでは、「筆算とその指導（弱視児童への配慮）」に関して、見やすさに配慮した教材例を紹介しています。弱視者の児童には、まぶしさを感じやすいため、白地に黒文字の計算カードや筆算用の計算枠が提案されています。これにより、正確な筆算の指導が可能となるということでした。また、測定に関する指導も重要とのことでした。視覚障害者の児童は計量的な生活経験が乏しく、計器による測定には困難が伴うことがあります。そのため、身の回りの物の大きさや重さに興味や関心を高めることで、基礎的な理解を育てる必要があります。こうした指導においては、量の概念を踏まえて正しい理解を得ることが重要です。図形の指導では、触知覚活動や展開図を通じて、基本的な図形や身の回りの物の位置関係を理解させることが求められます。視覚に依存しない形や空間の表現方法を育てるために、手指を活用した触知覚活動が推奨されています。さらに、立体の平面的な表し方（投影図法）も重要なポイントです。立体図形を理解するためには、投影図法や展開図の活用が必要であり、触覚を活用した教具が導入されています。最後に、点字教科書や拡大教科書、デジタル教材などが活用されています。これらの教材は視覚障害者の特性に合わせて編集され、効果的な学習を支援します。また、補助具や機器の活用も大切であり、将来の社会生活に向けての準備を促すものとなっています。総じて、視覚障害者の子供たちに対する算数・数学の教材と教具は、見やすさや操作性を重視したものが提供されていて，生徒たちのニーズに合わせた指導と工夫が、数学学習の質を向上させる重要な要素です。  **２．将来の展望**  ※上記の学修成果を教職に就くに当たってどのように生かしていくかを600～800字程度で記述してください。  視覚障害のある子どもたちがより効果的に学べる環境を提供する方法について，まず第一に教材の選定と工夫をしてみたいと考えました．教材の選定や作成において，点字や拡大教科書，デジタル教材を活用することが挙げられます．また，適切な教材を選んで，それに応じて工夫したいと考えました．次に，授業の進め方については，触覚活動や展開図法，投影図法などを取り入れて，視覚障害のある子どもたちが図形や数学の概念を理解しやすい方法を見つけたいと思いました．授業内での実体験を通じて，子どもたちが数学の楽しさや面白さを感じるような指導を心がけることが重要だと思うので，個々の生徒の特性やニーズに合わせて柔軟なアプローチを考えてみようと思いました．さまざまなバリエーションのアプローチをできるようになるために日常でそれに適した手法をかんがえてみたいです．さらに，教材の利用方法や補助具の操作方法を生徒に教えるスキルも必要であり，具体的には点字教科書や拡大教科書，デジタル教材を使える能力を養うことが必要であることもわかりました．以上のことから，上記の学習成果を活かすには必要とされる能力のうち，必要とされるものを習得することであると考えます． |

＊「社会福祉施設5日間体験」が実施できないための代替課題【視覚：全員用】を8月31日(木) までにCLEに提出して下さい。

＊未提出者および内容不備の者は、「介護等体験代替措置完了証明書」の発行がされませんので、くれぐれも気をつけてください。

＊摂津支援や吹田支援で介護体験をした学生は、箕面支援代替課題【聴覚】を提出する必要はありません。